

委員名	國學院大學観光まちづくり学部 学部長 梅川 智也 氏
ヒアリング日時	令和8年8月18日（火） 午後3時 ～ 午後4時
場所・方法	オンラインにて聞き取り

委員からの 所感・意見	○ 資料に対しての意見 ① 資料2 「犬山市観光戦略 KPI進捗状況 一覧表」 ● 宿泊者数が20万人を達成しており、今後は量よりも質。閑散期対策や地域に対しての取り組みをより重視することで地域全体の価値を上げていくことが必要。 ● 消費額については宿泊者数のサンプル数が少ない。数値の精度を上げていくためにもサンプル数が増えることが望ましい。 ● 地元の雇用・地元調達率の指標が弱い面があり、財源確保の取り組みも進めることによって景観向上や地域が豊かになることに繋がり、さらに地域住民が観光での恩恵を実感できる地域循環をしていくことが重要。 ● 国としても2026年度より「第5次観光立国推進基本計画」を打ち出しているが、その内容としては観光客と住民が共生していく部分が見え隠れしている。そのため、地域住民の意見や意向を聞き取っている姿勢や住民側のKPI、住民にとって観光での賑わいがどのように住民の便益に繋がっているのかを見えるようにしていく必要がある。 ② 資料3 「施策の総括表 進捗管理シート」 ● 戦略の策定時はどうしても総花的な内容となってしまう。観光戦略を進めていく上で具体的な取り組みとそうでない部分に分かれて来ているため、限られた財源と人員資源を選択と集中により何に注力していくかを検討しなければならない。 ● DMOの議論が進んでいない。地域マネジメントに注力していくにはDMOとしての機能が必要となってくる。官民連携で戦略的な展開やDMOとしての財源確保、安定的に観光まちづくりのために使える財源も今後必要になってくる。
	○ 全体を通しての講評 ● 戦略策定時に構想していた内容は実験を超えて実装段階に入っているものもあり、高く評価していい。中間見直し時のKPIについて、観光に注力していくことで地域に成果を還元していく指標（住民の観光理解度など）を取り入れ、量から質へ変換していくことで単なる観光振興から観光地経営の視点を取り入れていくことが必要。 ● 内田・栗栖でハード整備を進めていくことと並行し、整備後のエリアマネジメント実現に向けて運営体制の設計をしていかなければならない。 ● 地域全体のマネジメントはDMOが果たしていくべきであり、データ分析で戦略的な取り組みやキャッシュレス化などエリアとしての満足度を高める仕組みづくりを進める時期に差し迫っている。 ● 「ビジョン・組織・財源」を一貫して考えていることが大切で、観光地として数値が延びている段階で進めていく必要がある。 ● 地域の価値が高まる取り組みを進め、来訪者の喜びが実感できる職業というのは貴重。観光業というものが若い人が入ってくれる憧れの産業になっていくといい。